

科目名	人口社会学				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	3 年次
教員名	藤野 敦子			単位数	2 単位

授業概要／Course outline

本授業、人口社会学は、人口学分野における形式人口学（人口変数や人口変数間の相互関係）と実体人口学（人口と社会との相互関係）の両方を体系的に学ぶことを目的としています。

第2回～第6回までは、主に形式人口学分野で用いられる変数や概念、およびそれら変数の相互関係に関する分析を取り上げます。また、各回のテーマに関連する現代世界における人口問題の現状についても論じます。取り上げるテーマは以下の通りです。

(1)人口統計(2)人口変動(3)人口構造(4)出生(5)死亡

第7回～第13回までは人口学分野で議論されてきた理論や、それらに関連する人口政策について学びます。取り上げる理論は以下の通りです。

(1)マルサスの人口論(2)古典的な人口転換理論(3)第二の人口転換(4)ベッカーとウィリスによる出生力の経済理論(5)出生力に関するジェンダー理論

★名画との関連

本授業では、各回のテーマに関連する「世界の名画」を取り上げ、人口学の統計的および理論的側面を深く、また楽しく学べる内容としています。例えば、ブリュゲルの「ベツレヘムの人口調査」などが題材となります。名画を通じて、人口学の知識をメディアや芸術と関連づけて理解することを目指します。

これらの構成により、本授業は人口学の基礎から応用まで幅広く学べるとともに、学問と芸術の融合を体験できる充実した内容となっています。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

Formsを使用して、スマートフォン、タブレット端末、PCなどから意見や質問を送信。それを用いながら双方向型の授業を展開することがある。授業は録画され、必要な場合には提示する。ワークシートへのメモは、OneNoteなどを使用するとよい。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 授業ガイダンス・人口学のイントロダクション（人口学の歴史など）

- ・授業のガイダンス（授業の到達目的、スケジュール、単位認定の方法、効果的な受講方法等）
- ・人口をなぜ学ぶのか。
- ・人口学はいつ生まれたのか。
- ・形式人口学と実体人口学分野との違い。

第2回 人口に関する基礎概念 ①人口統計（欧州の人口統計の状況と日本の国勢調査の比較）

- ・「人口統計」について学ぶ。
- ・国勢調査など人口センサスの意義について学ぶ。

第3回 人口に関する基礎概念 ②人口変動（日本の人口減少）

- ・「人口変動」について学ぶ。
- ・なぜ日本の人口減少が起こっているのかを具体例として人口変動の概念を深める。

第4回 人口に関する基礎概念 ③人口構造（人口ボーナス・人口オーナス）

- ・「人口構造」について学ぶ。
- ・人口ボーナス・人口オーナスの概念によって「人口構造」の経済への影響を考える。

第5回 人口に関する基礎概念 ④出生（日本の少子化の問題-概論）

- ・「出生」について学ぶ。合
- ・計特殊出生率、人口置換水準等の導出方法を学ぶ。
- ・日本の少子化の課題にも触れる。

第6回 人口に関する基礎概念 ⑤死亡（日本の長寿化・高齢社会-概論）

- ・「死亡」について学ぶ。

・死亡率の様々な指標について学ぶ。

・途上国の課題、日本の高齢社会における課題にも触れる。

第7回 マルサスの人口論

・人口論の父と言われているマルサスの人口論の時代背景、概要について学ぶ。

第8回 マルサスの人口論のその後

・マルサスの人口論が人口政策に与えた影響や人口政策の転換などについて学ぶ。

第9回 古典的人口転換理論

・18世紀～20世紀までの欧州の人口動態を説明する理論としての古典的人口転換理論について学ぶ。

第10回 第二の人口転換

・古典的人口転換理論を復習するとともに、その後に起こった欧州での第二の人口転換について学ぶ。

第11回 1970年代の欧米の出生率低下を説明する理論：ベッカーの質・量理論

・第二の人口転換を説明する理論としてのG. Sベッカーの質・量理論を中心とする経済学分野の理論について学ぶ。

・ベッカーの理論に基けばどのような政策が示唆できるのかを考察する。

第12回 1970年代の欧米の出生率低下を説明する理論：ウィリスの理論

・ベッカーの質・量理論を復習するとともに、ベッカーの理論を受け継いだウィリスの理論を学ぶ。

第13回 1980年代半ば以降の欧米の出生率回復を説明する理論：マクドナルドのU字型仮説（ジェンダー不均衡平理論）

・1980年代半ば以降の欧米諸国における出生率回復を説明する理論としてマクドナルドのU字型仮説（ジェンダー不均衡平理論）を学ぶ。

・欧米諸国と日本を比較しながらジェンダー関連施策を考察する。

第14回 臨時試験

・第1回から第13回までの内容について試験をする（90分間）

第15回 臨時試験のフィードバック（★オンデマンド授業:90分程度）

・臨時試験及び授業全体の振り返りをオンデマンドにて配信する。

事前・事後学修／Preparation and assignments

準備学修（事前・事後学修）についての注意事項

準備学修に関しては、第1回～第13回までは、事前学修に60分程度、事後学修に120分程度かけることを目安としてください。特に事後学修では、十分に復習した上で、最後に小テストの答えを送信してください。第14回は事前学修として180分、第15回は事後学修として180分程度かけることを目安にしてください。準備学修として本授業では、合計2700分（45時間）程度が必要です。

=====

第1回 授業ガイダンス・人口学のイントロダクション（人口学の歴史など）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第2回 人口に関する基礎概念 ①人口統計

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第3回 人口に関する基礎概念 ②人口変動（日本の人口減少）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第4回 人口に関する基礎概念 ③人口構造（人口ボーナス・人口オーナス）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第5回 人口に関する基礎概念 ④出生（日本の少子化の問題-概論）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第6回 人口に関する基礎概念 ⑤死亡（日本の長寿化・高齢社会-概論）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第7回 マルサスの人口論

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第8回 マルサスの人口論のその後

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第9回 古典的人口転換理論

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第10回 第二の人口転換

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第11回 1970年代の欧米の出生率低下の理論：ベッカーの質・量理論

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第12回 1970年代の欧米の出生率低下の理論：ウィリスの家計生産アプローチ（60分）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第13回 1980年代半ば以降の欧米の出生率回復の理論：マクドナルドのU字型仮説（ジェンダー不均衡理論）

事前学習：moodleにアクセスし、PPTを見ながら、ワークシートのキーワードについて事前調べをすること。（60分）

事後学習：ワークシートの復習、ワークシートに記載されていた記事を読みさらに講義内容を深める。その後、小テストを受験し、フィードバックによりさらに復習をすること。（120分）

第14回 臨時試験

事前学習：復習（準備学習として事前学習に180分程度かけてください）

第15回 臨時試験のフィードバック（★オンデマンド授業：90分程度）

事後学習：臨時試験のフィードバックにより、これまでの授業の振り返りをする。（事後学習に180分程度かけてください）

授業の到達目標／Expected outcome

1. 人口学の用語、概念を理解し、それらについて正しく説明できること。
2. 人口学の変数間の関係性を理解し、正しく計算ができること。
例：従属人口指数、人口置換水準、年齢調整死亡率、平均余命など
3. 講義に出てくる人口理論を理解し、それらについて正しく説明できること。
4. 講義で学んだことに基づき、現代社会の人口問題を解決する政策に対する評価や批判ができること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

専門知識・専門技能

【現代社会学部 現代社会学科】

・社会学をはじめとする社会科学の応用知識

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・「Forms」を使用し、双方型の授業をする。
- ・本授業は、ペーパーレスを目指しており、受講生の皆さんはPC、タブレット等を持ってくる（授業のワークシートをOneNoteなどに貼り、メモしていく）。
- ・臨時試験の方法は授業内で詳しく説明をする。

評価方法／Evaluation

- ・ 第14回に実施する臨時試験60%、授業後に配信される復習のための小テスト40%。
- ・ 授業の理解度をはかる小テストについて毎回moodle上で実施する。moodle上で小テストのフィードバックを行う。
- ・ 第14回に実施する臨時試験のフィードバックは、オンデマンドにて配信する。

教 材／Text and materials

1. 教材（配布レジメ、資料等）：大学HP→学習支援システムMoodle（URL： <https://cclms.kyoto-su.ac.jp/>）
2. 参考図書
 - ・ 河野 稠果『人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか』（中公新書，2007年）
 - ・ 加藤久和『人口経済学入門』（日本評論社，2001年）
 - ・ 大淵寛・高橋重郷編 『少子化の人口学』（原書房，2004年）
 - ・ 藤野敦子『不思議フランス魅惑の謎』（春風社，2014年）
3. 参照URL：URL： <http://www.ipss.go.jp/> （国立社会保障人口問題研究所HP）

質問や相談の方法／Instructor contact

- 授業に関する質問、相談は次のいずれの方法でも対応する。
- ・ 授業の前後
 - ・ moodleに記載するメールアドレスやTeamsチャットでの連絡
 - ・ お昼休み12時15分～13時15分）のオフィスアワー時の研究室訪問